

# 平成27年産米をめぐる情勢について

## 26年産米の販売状況

(新潟県・7月末現在)

### (1) コシヒカリ

品質や価値感のある価格が支持され、概ね順調な販売となっております。ただし、他県産米の特売が1,280円/5斗前後とこれまでにない水準となっていることから、出荷数量は前年比103%に伸びかかっています。

### (2) こしいぶき

26年産の品質低下の影響や安価な他県産米との競争により、厳しい販売状況となっております。次年度へ持ち越される見込みの6千トンを長期計画的販売に推進し、全量契約完了となっています。

### 長期計画的販売の取り組みとは

米穀の売り急ぎを防止し、26年産米の年間を通じた安定販売をはかるため、27年11月以降需要分を含めて早

期の全量契約をはかり計画的に持ち越す取り組み。全国で39万ト程度契約が積み上がり、35万ト程度が古米使用される見込み。

### 27年産米の需給見通し

依然として需給緩和が続く

国の基本指針における需給見通しを踏まえると、27年10月末の持越在庫は、前年同期よりも10万ト多い39万トとなることを見込まれています。

27年産米の作柄は、主要産地における生育が概ね順調に推移しており、平年以上が見込まれています。

27年産米の需給見通しについては、飼料用米や麦・大豆等の生産拡大により、28年10月末持越在庫は作況が100で21万ト、作況102で36万トになると見込まれており、引き続き需給緩和となることが想定されます。

【表1. 近年の主食うるち米出荷・契約状況 (27年7月末日現在)】

銘柄	出荷実績 26年産/25年産	出荷進度 (販売計画対比)				契約率 26年産
		26年産	25年産	24年産	23年産	
コシヒカリ	103%	83%	85%	77%	81%	98%
こしいぶき	117%	85%	84%	72%	88%	100%

【表2. 今後の需給見通し (全農試算)】 (単位: 万トン)

		作況100	作況102
26年10月末持越在庫 A		29	29
27R Y	26年産生産量 B	788	788
	供給量計 C=A+B	817	817
	主食用等需要量 D	778	778
27年10月末持越在庫 E=C-D		39	39
28R Y	27年産生産量 F	752	767
	供給量計 G=E+F	791	806
	主食用等需要量 H	770	770
28年10月末持越在庫 I=G-H		21	36

注1)(A)29万トンは、全農持越在庫 (うるち米24万トン+もち5万トン)。

注2)(B)788万トンは、国の公表値 (青死米の影響は考慮していない)。

注3)(D)778万トンは、国の基本指針による。

注4)(F)752万トンは、26年産の平年ベースの生産量778万トンから飼料用米の26年産からの拡大分20万トン及び麦・大豆・WCS等の拡大分6万トンを差し引いた。

注5)(H)770万トンは、国の基本指針による。

## 27年産米の販売対策

全量の単年度販売に取り組み

### (1) 基本的な考え方

需給緩和が想定されるなか、生産者手取りの最大化をはかるため、出荷結集と全量単年度販売にJAと全農県本部が一体となって取り組みます。

### (2) 実売促進対策

新米出回り期の

スタートダッシュをはかるため、早期の需要確保をはかるため、収穫前契約の最大限の積上げに取組むとともに、卸と年間販売イメージを共有し、販促企画など早期に提案します。

販売価格については、他県産米の状況も踏まえつつ、新潟米として消費者・実需者から受け入れられる水準で設定します。

販促対策については、販売のスタートダッシュをはかるため、新米出回り期のテレビCMを継続するとともに、イベントやキャンペーンなど新潟米PRを積極的

に展開します。

卸・実需者(大手量販店・コンビニ・外食産業等)と連携し、新潟米PR活動と売場展開を連動させて販売拡大をはかります。



【表3. 販売促進対策の主な取り組み内容】

	項目	内容	実施時期
新潟米全体のPR	新潟米テレビ・ラジオCM	新潟米(コシヒカリ、こしいぶき)ブランドの強化をはかるとともに、卸売業者などが実施する販促活動を支援するため、テレビ・ラジオCMを放映する。	新米出回り期
	県との共同宣伝	ライスガールズによる新潟米体験イベント等を実施し、新潟米のPRをおこなう。	10月~11月
	実需者との共同宣伝	新潟米使用商品を販売する大手コンビニや実需者の販促活動を支援し、商品を通じて新潟米のPRをおこなう。	通年
	PRイベント	新潟米懇談会、アルピサンクスデー 米の陣・酒の陣、他	通年
販売促進	販促提案	取引先に対して、年間を通じた販促計画について協議をおこなう。	8月
	JAトップセールス	JAと全農県本部が一体となって取引先への販売推進をおこない、産地指定等、結び付販売の強化をはかる。	通年
	卸との共同宣伝	全農県本部と卸等が共同で宣伝を実施し、全農委託米穀の販売促進をはかる。	通年
	その他	新潟米情報発信サイトの運営 各種販促資材の作成、他	

出荷契約に基づき、卸・実需者等への販売推進に取り組んでいます。  
高品質で安全・安心な「新潟米」の生産と安定供給のため、JAへの出荷結集をお願いいたします。